

第1回射水市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議録

○日時：平成27年8月31日（月）午後1時30分～

○場所：小杉文化ホールラポール研修室1

1. 人口ビジョン（資料1）について

（委員）

資料22頁の目標人口推計における合計特殊出生率の設定グラフ（図4-1）において、合計特殊出生率が2010年から2040年までほぼ直線で推移するように設定しているが、その理由について確認したい。

（事務局）

2010年から2040年に向けて平均値で伸ばしたものである。

（委員）

平成17年に市の人口がピークを迎えているが、合併時期が分岐点になっていることを改めて実感した。

（委員）

資料11頁の社人研による人口推計結果のグラフ（図2-1）において、15歳～64歳の生産年齢人口の減少が顕著に見られるが、将来、産業に大きな影響を及ぼすことが懸念される。したがって、この年代の減少傾向に対し、特別の歯止め策が必要であると考えられる。

（事務局）

少子高齢化により将来の人口構成がいびつになり、ご指摘のような問題がある。そこで若年層を積極的に受け入れる戦略をまとめている。

（委員）

労働力として学生の貢献もあると思うが、学生の多くは住民登録をしていないので、実態には表れていない。海外、県外からの学生数は把握しているか。

（事務局）

資料26頁の将来目標人口推計結果による生産年齢人口の推移グラフ（図4-5）を見ていただきたい。社人研推計よりも減少率を相当抑えている形になっているが、こうした将来像を目指して戦略を立てている。なお、推計においては国勢調査の人口を基準としており、住民票の有無に関わらず、そこに住んでいる人は全て対象になっている。

（委員）

資料7頁の合計特殊出生率の推移グラフ（図1-10）において、平成23年～平成24年に出生率が上昇しているが、その要因を解明すれば戦略のヒントになるのではないか。

（事務局）

合計特殊出生率は、全国レベルは安定しているが、市レベルになると些細なことでも影響を受けやすい。ご指摘の点は、振れ幅の一つとして捉えている。

（委員）

出生率を高めていくためには、中学生、高校生からの教育が重要になる。生徒に家庭や子どもを持つ良さなどについて、啓蒙していくことが大切である。また、出産・子育てしやすい射水市として一般に定評があるが、これをもっとアピールしていくべきである。

(委員)

今のご意見は、戦略的なことなので、後で議論する総合戦略のところで改めて議題にしたい。

2. 総合戦略（資料2）について

(委員)

資料3頁に本市の強み・弱みを挙げているが、どこと比較して、どういう判断で強み・弱みを整理されたのか聞きたい。個人的印象では、交通網は本当に強いのかという疑問符がつくが。

(事務局)

本市の環境についてデータ等で客観的にみて、他市と比べても強みを持っていると判断した。

(事務局)

強いと必ずしも言い切れないところもあるかも知れないが、安く家が建てられて富山や高岡へ容易に通えるという利点から快適居住都市としての強みはあると考えられる。全国的な比較ではなく、富山県内で見て有利な点を強みとして挙げている。

(委員)

強みとして挙げている多様な幹線交通網は、大人の視点での評価ではないか。学生が目線だとアンケート結果からも明らかなように交通不便な地域として評価される。とりわけ新湊地域は公共交通機関が不便と感じられるので、そのあたりについて検討していただきたい。

(委員)

交通において他市との結びは強いが、市内の結びが弱い。特に新湊～小杉間が弱い。戦略の方向性の中に反映してはどうか。

(委員)

「まち」「ひと」は強調されているが「しごと」について、やや弱いように思われる。本市には産業の強みがあるので、戦略の方向性に反映してはどうか。

(事務局)

産業振興、しごと創出等について、戦略への反映を検討したい。

(委員)

若い子育て世代の定住化の推進において、高齢者の活用を考えているか。

(事務局)

市内に限って言えば、学校の放課後に高齢者が児童生徒の課外授業に関わるなどの活躍の場がある。

(委員)

合併からの10年を振り返って、良い点、悪い点、反省点等があると思うが、どのよう

に考えているか。

(事務局)

対等合併による無駄もある。良いものは活かしつつ、悪い点を改善するリノベーションを推進していく必要があると考えている。

(委員)

先程委員が発言された子どもを持つ良さなどを啓蒙していくことについて、どのように考えられるか。

(事務局)

富山県において講座などを開催している。本市でも今後実施していくべきと考えている。

(委員)

資料 18 頁の具体的施策に「創業や特色ある企業への支援」を掲げているが、「特色ある企業」とすると特定の制限をかけている印象を受けるので、特定の意図がないならば、「意欲ある企業」にしてはどうか。

(事務局)

ご意見を踏まえ、文言修正等を検討したい。

(委員)

資料 16 頁の具体的施策「郷土愛を育む教育の推進」において、伝統行事の伝承は良いが、それを外の人に褒めてもらうことによって、自信につながり郷土愛にもつながることになるので、そういう場をつくってもらえると良いと思う。

また、スマートフォンに対応した子育て情報ちやいる.com について、K P I にアクセス件数を活用できないか。

(事務局)

伝統行事については発表する機会を増やしながら、地元の方に評価をしてもらうよう努力している。外部の方に見ていただいて評価を受けることについては、どういう範囲でどういうことができるのか等について検討して行きたい。

(事務局)

伝統文化の紹介に当たり、観光ボランティアに期待し充実を図っているところであるが、市外向けに対応できるか検討して行きたい。

(委員)

県内、市内にも、県外、海外から来た人が固まっているところがあるので、まずはそういうところにご依頼等をいただければと思う。

(委員)

男女の出会いの場の創出支援に関して、どのような特典があるかなど P R しているか。

(事務局)

出会いや結婚に関しての P R はしていないが、子育て支援については県内に知れ渡っている。市内に子育て支援センターは 12 箇所あるが、富山市とほぼ同数である。今後積極的に推進していくことについて財政的観点も含めて検討していきたい。

(委員)

「しごと」について、委員がやられていることを加える考えはあるか。

(事務局)

委員には別の機会で見解を聞いて、戦略への反映を検討していきたい。

(委員)

企業誘致、企業の拠点化の強化について、具体的なものがあるのか。また射水ブランドに関して食品メーカーのパッケージ活用などが考えられるのか。

(事務局)

企業の拠点化の強化や空き店舗、工場等のマッチングサイトの設置について検討している。食品メーカーのパッケージ活用等については、検討したい。

(委員)

高等教育機関の活用施策について、地元小中学生を対象とする地域の教育に高等教育機関が関わっていくことを考えてはどうか。東京都国立市のイメージのような他市にないイメージ戦略ができないか。

(事務局)

ご意見を踏まえ、取り組んでいきたい。

(委員)

県立大学では小杉高校生の受入れを実施している。

(事務局)

理科実験の公開や小中学校への出前講座、学生による補充学習などを実施してもらっている。今後とも連携・拡充して推進していきたい。

(委員)

資料 21 頁の人を呼び込む観光振興について、呼び込むだけでなく、来る客の消費を促すことについてどのように考えているか。

また、小杉駅舎の有効活用について、パーク&ライドについて、コミュニティバスについて、周遊観光路線の整備について、市の考えを聞きたい。

(事務局)

観光客の消費については、客の誘致が先決で、次に滞在時間の延伸化を図ることによって消費拡大につながっていくと考えている。

(事務局)

小杉駅舎の有効活用については、検討中であり、実現に向けてのバックアップを考えている。

パーク&ライドについては、コミュニティバスも含めて検討していく。

バスターミナルについては具体的な話はなく、今後の検討課題である。

(委員)

高齢者について、外出機会を増やし外に出て歩いてもらう施策を掲げている市が多いと聞くが、どうなっているのか。

(事務局)

高齢者の健康づくり、介護予防の観点から、軽運動を広め健康寿命を伸ばす取組みを盛り込んでいるが、施策としてももう少し分かりやすくなるように、表現の工夫等をしたい。

(委員)

資料 25 頁の具体的施策「地域の防災体制の整備」において、地域を守る消防団員の確保を掲げているが、具体的には何をするのか。

(事務局)

基本的には団員の勧誘である。

(事務局)

勧誘に当たっては、待遇の改善も重要であり、活動支援等も合わせて取組みを検討している。

(委員)

資料 26 頁の具体的施策「富山県西部圏域連携都市圏の形成」の K P I に連携して取り組む事業数 3 件とあるが、具体的なものがあるのか。

(事務局)

西部圏域連携都市圏については今年の 2 月に研究会が発足し、広域圏で研究を進めつつあるところである。研究テーマとして、広域観光のパッケージ化や観光地を巡る 2 次交通のあり方などがあがっている。

3. 今後の日程について

次回の第 2 回推進委員会は、10 月中・下旬を予定している。